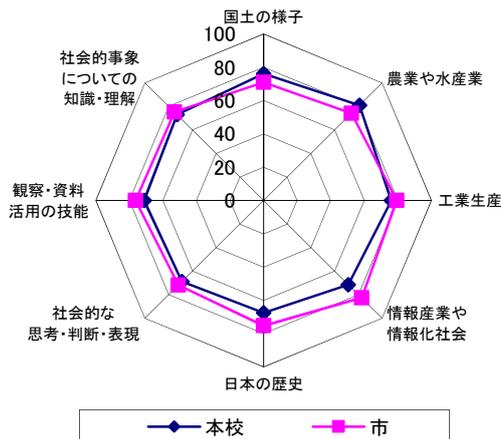


宇都宮市立清原北小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	76.2	71.0	69.4
	農業や水産業	81.0	74.0	69.0
	工業生産	76.2	79.4	75.4
	情報産業や情報化社会	71.4	82.8	88.7
	日本の歴史	67.5	75.2	72.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	68.7	71.9	67.2
	観察・資料活用の技能	71.1	76.3	70.7
	社会的事象についての知識・理解	73.0	75.1	73.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	<ul style="list-style-type: none"> ○海洋名、近隣国の国旗、河川や平野などについて理解できている児童が多い。 ●防災マップや会話文を参考に自然災害が起きた際の自助の大切さについて考えて表現する問題が市の平均正答率を下回った。与えられた条件を満たしながら作文することが十分にできていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○どの教科でもそうだが、まずは問題をきちんと読むよう指導する。条件やキーワードに下線などを引き、答える際に意識できるようにさせる。 ●災害が起きた際の自助、共助、公助などについて復習する。
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> ○市の平均正答率を上回り、日本の食料生産について理解できている児童が多い。しかし、ある野菜の生産分布地図を見て、その野菜についての説明と結び付けられない児童もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●主な野菜の生産地を理解させるととも、都道府県の場所や気候の特徴などについても理解できるようにする。給食時等に主な野菜や果物の生産地について確認するなどし、関心を高めていく。
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は市の平均正答率を下回る。自動車がどの工業製品に属するのか分類することができない児童が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●できあがった製品が、どの工業製品に分類されるのか、授業や宿題で確認する。
情報産業や情報化社会	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は市の平均正答率を下回る。特に医療現場での情報ネットワークの活用で、サービスが向上したことを資料をもとに読み取ることができなかった児童が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分たちの身近な生活の中で情報ネットワークがどのように活用されているか話し合い、その便利さを感じられるようにする。 ●資料をよく読み、資料を通して、どんなことを言いたいのか、ポイントはどこなのか、考えながら読み取り、大切な部分には、下線などを引き、意識して読み取っていくよう助言する。
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は市の平均正答率を下回るが、特に資料をもとにその事象の背景や理由を作文する問題においての正答率が低かった。また、おおよそ鎌倉時代以前の学習内容について基本的なことを忘れてしまっている児童も見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●忘れてしまったことを問題集を繰り返し行うことで定着させていく。また、自主学習でまとめたり、整理したりできるようにする。 ●時代ごとの特徴を短くまとめさせ、特徴を言えるよう支援する。

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの